

《家庭科における授業改善推進プラン》

I 家庭科における平成30年度授業改善推進プランの検証

〈取り組みにおける成果と課題〉

- ◎ 動画や掲示物を活用して視覚的に理解してから、実習に取り組むことで児童が意欲的に見通しをもって学習に取り組むことができた。
- ◎ 日常生活に役立つ物の製作や児童の興味関心や発達段階に合った教材を工夫することで児童の興味・関心を高めることができた。
- ▼ 衣食住に関する基礎的な事項への興味関心をもつ事はできたが、技能の個人差に応じた指導や、創意工夫を十分に生かす指導ができたとは言えない。

II 家庭科における現状の分析

観 点 別 学 習 状 況 の 分 析	1 家庭生活への関心・意欲・態度
	◎ 実生活とのかかわりを考え、生活をよりよくしようとする関心・意欲が見られる。 ▼ グループで協力して行う事はできるが、個人的に家庭で再度取り組もうとする意欲や取り組みの状況は個人差が大きい。
	2 生活を創意工夫する能力
	◎ 学習したことや体験したことを、日常生活に活かそうとしている。 ▼ 自分の発想や工夫を生かす学習の機会が十分に確保されているとはいえない。
3 生活の技能	
◎ 学習を進めることで技能は高まってきている。 ▼ 個人差は大きい。	
4 家庭生活についての知識・技能	
◎ 学習内容はおおむね理解している。 ▼ 学習で得た知識と実生活が十分に結びついているとは言えない。	

III 授業改善のポイント

- 1 衣食住に関しての生活経験に児童間の差がある。
→ 日常生活と授業内容の関連を理解できるように、実習や製作など具体的活動を多く取り入れる。
- 2 技能面で個人差が大きい。
→ 安全を確保し基礎的な技能を確実に身に付けさせるとともに応用的な活動も取り入れ個人差に対応する。教え合いの活動を取り入れる。
- 3 基礎的事項の理解と知識の定着を図る。
→ 既習の内容を家庭で実践する事を奨励し認める。家庭で調べてきたこと、実践したことを新聞にまとめる。学習ノートへの記入や評価テスト前に復習の時間を確保する。

IV 家庭科の授業改善策

- 1 日常生活と学習の関連を図るために
(1) 限られた授業時間に実習・製作時間を確保し、児童の意欲や関心を高め、実生活での自主的な実践に結び付けることを促す。
- 2 技能の確実な定着を図るために
(1) 動画や掲示物などを提示し、まず自分で考えてやってみる事ができるようにする。
学習状況を確認し必要に応じて個別指導し、安全に進められるよう声かけする。
(2) つまづいても落ち着いて再度挑戦していけるよう支援する。作品に創意工夫を取り入れることができる製作活動にし、さらなる技能の向上を図る。
(3) 活動の終末に振り返りを書く時間をとり、添削して、次の活動への意欲につなげる。
- 3 学習から得た知識を、実際に児童自身の生活に生きる知識とするために
(1) 児童が互いの生活経験や家庭での調査結果、課題に対する考えなどを発表し合い交流する学習活動の場を増やす。
(2) 調理・掃除・洗濯・リサイクル等、家庭で実践したことを記録するカードを作り、自己評価や振り返り、家庭からのコメントをもらうようにする。
(3) 家族に喜んでもらえたという経験ができたこと評価し、さらに自主的な取り組みに結びつけられるように支援する。

